



tasar

Japan Tasar Association
<http://www.tasarjapan.org/>

113

Tasar News Letter



© 日本テザー協会

33 艇が参加した第 37 回テザー級全日本選手権@江ノ島 集合写真

目次

1) JTA 会長からのご挨拶

2) 協会からのお知らせ

2022 年度行事

2022 年度テザー年次総会のご案内

2023 年度年間レーススケジュール

3) レースレポート

公式レース結果

全日本選手権レポート

4) 特別寄稿

テザー世界選手権レポート

2023 年 2 月 発行

セーリングで世界とつながろう！！

突然ですが、皆さんは Facebook を使っていますか？ Facebook に“Tasar Sailors Worldwide”というグループがあります。世界 Tasar クラス協会の正式な Facebook です。ここでイギリス Tasar 協会会長の Rick Perkins が “Is it time to review / drop the 130kg rule?” と、議論の場を提供してくれました。C6 は、セイラーの合計体重が 130kg に満たない分の重りを、艇に積むことを定めたルールです。彼は日本がずっと C6 撤廃の活動していたことを知って、「日本もここでの議論に参加しないか？そして、もう一度 C6 撤廃案を日本から出してくれ。」と呼びかけてくれたのです。C6 撤廃については歴代の JTA 理事会メンバーが頑張ってきたのですが、常に WTC では相手にされず、投票でも否決され、JTA には完全な諦めムードができあがっていました。オーストラリア Tasar のリーダー的な存在である Alistair Murray の手紙は、議論を呼び起こしましたが、ルールを変えるまでには至りませんでした。しかし、Rick が Facebook に作った議論の場は盛り上がり、世界中の Tasar セイラーが話し合いました。オーストラリアの人々が今になってクラスルールの変更にポジティブになったのにはいろいろな要因がありますが、オーストラリアの中でも議論が行われ、C6 撤廃の方向に向かっていくような雰囲気を感じることができました。これを受けて JTA は Tasar クラスルールから C6 を削除する提案を WTC に提出し、先日この提案に対する投票が行われました。私の中では、これまでの経験もあって、投票の結果が示されるまで、2/3 の票を取るのとは不可能なんじゃないかという気分がありました。2023 年 2 月 2 日、昼食を食べているとき届いたメールを見て、思わず声を上げてしまいました。撤廃案に賛成 7 票、反対 1 票、棄権 1 票という結果でした。諦めムードに呑まれていた自分をすごく恥じた瞬間でもありました。一方、世界には Tasar のセーリングを愛していて、常により良くしていこう、トライしてみようと考えている仲間が沢山いるのだと思えた瞬間でもありました。改めてセーリングで世界とつながっていて良かったと。改めて Rick に感謝です。

ところで、2022 年秋の全日本選手権には 3 年ぶりに 30 艇を超える船が江ノ島に集まりました。特に素晴らしかったのは、江ノ島フリートの方々を中心になって学生の参加者を集めてくれたことでした。Tasar は、良く言えばベテラン、悪く言うと年寄りに乗っている船という印象を持たれているような気がします。年配者が多いのは事実ですが、この船を知る人は、若い人ほど乗るべき船だと考えています。Tasar に学連を卒業した学生がチャレンジしてくれることは素晴らしい事だと思います。以前から大学生が卒業する年齢、22～23 歳になるとセーリングから離れていく人たちが多いことが問題視されていますが、社会人になってもセーリングを続けることで、学生ではなかなかできない、セーリングの楽しさを経験できる事を我々 Tasar セイラーは知っています。その一つが、なんとと言っても世界選手権への出場でしょう。Tasar の世界選手権大会は、およそ 2 年の周期で開催されていて、国内予選無しで参加できます。昨年、2022 年はコロナ禍の影響下ではありましたが、アメリカのシアトルで行われた大会に、日本の関口/上松ペアが参戦しました。本ニュースレターにお二人の参戦記が掲載されています。じっくり読んで下さい。2023 年の年末から 2024 年の新年にかけては、オーストラリアのメルボルンで全豪選手権と世界選手権が行われます。多くの方々と参加できることを楽しみにしています。そして、2026 年には日本で 5 回目の世界選手権が行われることが決まりました。オリンピッククラスや実業団に支えられていないクラスで、4 回も世界選手権ができるクラスなど日本にはありません。Tasar の愛好者が、真に素晴らしいセーリングライフを楽しんでいるからだと思います。学生の皆さん、もしこのニュースを読んでいたら、Tasar に乗ってみませんか？楽しいですよ。5 回目の日本の世界選手権開催に向けて準備を始めています。Tasar の世界選手権は世界中どこに行っても手作り感いっぱいのアットホームな世界選手権です。準備を手伝ってくれる方がいたら、私にお知らせください。次の、または、次の次の世界選手権が、あなたと、世界のセイラーがつながる機会になりますように！

(2023 年 2 月 3 日)

2022 年度行事（協会公式イベント）

アーリーサマーレガッタこそ中止となりましたが、スプリングレガッタが 3 セーラー葉山で開催されたり、江ノ島で開催された全日本選手権には 30 艇を超える参加艇が集まったり、と徐々に活気を取り戻しつつある 2022 年でした。

JTA 公式レース

スプリングレガッタ	(葉山/4月24-25日)	優勝 本吉/松苗組 (全 20 艇)
アーリーサマーレガッタ	(山中湖/6月5日)	中止
西日本選手権	(芦屋/7月10日)	優勝 北島/井戸組 (全 13 艇)
ミッドサマーレガッタ	(和歌山/8月20-21日)	優勝 三輪/山田組 (全 5 艇)
オートムレガッタ	(稲毛/9月11日)	優勝 軽部/軽部組 (全 12 艇)
第 37 回全日本選手権	(江ノ島/11月26-27日)	優勝 松苗/齊藤組 (全 33 艇)
ウィンターレガッタ	(蒲郡/12月11日)	優勝 石川/山田組 (全 2 艇)

海外イベント

Tasar Worlds 2022	(Seattle/9月17-25日)	優勝 Bergan/Bergan (全 30 艇)
-------------------	--------------------	---------------------------

2022 年度テザー協会年次総会のご案内

3月11日(土)にオンラインでの年次総会を予定しています。開催日程確定次第メーリングリストにて案内します。当日参加できない会員の方は、委任状の提出をよろしく申し上げます。

2023 年度年間スケジュール

来年のレーススケジュールは、現状下記を予定しています。

スプリングレガッタ	(葉山/4月22-23日)
アーリーサマーレガッタ	(稲毛/6月4日 *前日練習会)
西日本選手権	(芦屋/7月9日 *前日練習会)
ミッドサマーレガッタ	(和歌山/8月26-27日)
全日本選手権	(琵琶湖/9月23-24日)
オートムレガッタ	(猪苗代湖/10月※)
ウィンターレガッタ	(蒲郡/12月※)

※詳しい日程および場所が決まり次第、[協会のホームページ](#)にて随時更新していきます。

世界選手権 / ワールドマスターズゲームズのお知らせ

◆テザー級世界選手権大会

次回の世界選手権は、オーストラリア メルボルンにて 2024 年 1 月 2-9 日開催が決定しています。直前の 12 月 28-31 日には全豪選手権も同会場にて開催となります。



◆ワールドマスターズゲームズ 2021 関西

延期となっていたワールドマスターズゲームズ関西は、2027 年 5 月開催で IMGA と合意されたと発表されました。

ともに続報があり次第、JTA から随時情報発信していきます。

レースレポート

スプリングレガッタ (葉山/4月24~25日)

3年ぶり葉山開催。テーザースプリングレガッタ 本吉/松苗優勝

2022 テーザースプリングレガッタ

CUT 1レース

Entry No	Sail No	Skipper	Crew	Crew	Fleet	Class	第1レース		第2レース		第3レース		第4レース		第5レース		第6レース		第7レース		第8レース		合計	CUT	NET	順位	
							着順	反則	得点	着順	反則	得点	着順	反則	得点	着順	反則	得点	着順	反則	得点	着順					反則
1	3	2988	本吉 夏樹	松苗 幸希	葉山		1		1	14	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	21	14	7	1	
2	12	2605	吉田 工作	齊藤 由莉	葉山		3		3	4	4	2	2	2	5	5	5	3	3	5	5	5	29	5	24	2	
3	15	2741	伊藤 一石	村岸 泰明	江ノ島	M	4		4	2	2	7	7	9	4	4	4	7	7	3	3	3	40	9	31	3	
4	6	2916	関口 真秀	上松 慮生	江ノ島	M	10		10	6	6	4	4	6	10	10	3	3	5	5	6	6	50	10	40	4	
5	4	2395	北島 龍一	井戸 達彦	葉山		15		15	11	11	5	5	4	4	3	3	6	6	2	2	10	10	56	15	41	5
6	5	2736	山村 太郎	福川 竜也	稲毛		12		12	7	7	6	6	8	8	7	7	9	9	6	6	2	2	57	12	45	6
7	9	2705	植田 泰平	植田 典子	芦屋	GM	2		2	5	5	8	8	10	10	6	6	7	7	9	9	14	14	61	14	47	7
8	2	2743	石川 輝	石川 光輝	大阪北港	M		OCS	21	1	1	12	12	5	5	8	8	10	10	10	10	9	9	76	21	55	8
9	10	2821	戸倉 寛明	山本 真	江ノ島	SGM	8		8	8	10	10	12	12	12	12	13	13	11	11	8	8	82	13	69	9	
10	11	2871	有山 夏子	飯井 祐介	葉山		6		6	13	13	11	11	11	11	11	12	12	8	8	12	12	84	13	71	10	
11	8	2863	秋山 紀夫	北村 重雄	琵琶湖	SGM	9		9	10	10	13	13	7	7	15	15	14	14	12	12	11	11	91	15	78	11
12	20	2765	田中 郁也	田中 紀子	稲毛	GM		DNC	21		DNC	21		DNC	21	2	2	2	2	4	4	7	7	99	21	78	12
13	19	2960	本吉 謙治	石橋 浩之	葉山	GM	11		11	12	12	14	14	13	13	9	9	15	15	16	16	4	4	94	16	78	13
14	16	2987	紙 聡	紙 さおり	葉山	M	7		7	3	3	3	3	3		RET	21		DNC	21		DNC	21	100	21	79	14
15	7	2764	小澤 拓身	岡本 憲二	琵琶湖	SGM	14		14	9	9	9	9	16	16	13	13	11	11	13	13	13	13	98	16	82	15
16	13	2707	石塚 信志	佐野 元美	浜名湖	SGM	5		5	17	17	16	16	15	15	17	17	8	8	14	14	18	18	110	18	92	16
17	14	2715	小松 利英	中井 彬人	葉山	M	13		13	15	15	15	15	18	18	14	14	16	16	18	18	16	16	125	18	107	17
18	1	2806	田代 和史	菊池 幸二	江ノ島	SGM	16		16	18	18	18	18	14	14	16	16	17	17	15	15	15	15	129	18	111	18
19	17	2709	藤本 康太	道下 慈英	葉山		17		17	16	16	19	19	17	17		DNS	21	21	19	19	17	17	145	19	124	19
20	18	2675	山崎 西原	葉山	M		DNF	21	19	19	17	17	19	19	18	18	18	18	19	19	17	17	148	21	127	20	

レースレポート (バルクヘッドマガジン) は、[こちら](#)。

アリーサマーレガッタ (山中湖/6月5日)

※ 新型コロナウイルス感染症の影響で中止

西日本選手権 (芦屋/7月9日)

北島・井戸組が初優勝を飾る！芦屋テーザー西日本選手権

第33回 テーザー級西日本選手権大会

2022年7月10日

Total Rank	Sail No.	乗員			フリート / 水域	クラス	Race 1			Race 2			Race 3			総合	
		スキッパー	クルー1	クルー2			着順	ランク	得点	着順	ランク	得点	着順	ランク	得点	得点	順位
1	2395	北島 龍一	井戸 達彦		葉山		1	1	1	5	5	5	1	1	1	7	1
2	2861	三輪 記裕	山田 竜也		大阪北港		3	3	3	1	1	1	5	5	5	9	2
3	2328	長 義晴	浜田 勇一		芦屋	GM	4	4	4	4	4	4	2	2	2	10	3
4	2719	石川 光輝	西代 周		大阪北港	M	7	7	7	3	3	3	3	3	3	13	4
5	2669	池田 俊則	秋吉 寿美子		大阪北港	SGM	8	8	8	2	2	2	4	4	4	14	5
5	2705	植田 泰平	植田 典子		芦屋	GM	2	2	2	6	6	6	6	6	6	14	5
7	2655	岡本 憲二	岡本 かほる		芦屋	SGM	5	5	5	8	8	8	8	8	8	21	7
8	2866	渡辺 克充	真鍋 昂之助		芦屋		9	9	9	7	7	7	9	9	9	25	8
9	2623	宮下 知之	石川 洋二		葉山	SGM	11	11	11	10	10	10	7	7	7	28	9
10	2676	荒川 徹	松浦 裕子		芦屋	GM	10	10	10	9	9	9	10	10	10	29	10
11	2573	荒岡 晃彦	荒岡 真弓		大阪北港	GM	6	6	6	DNC	DNC	13	DNC	DNC	13	32	11
12	2767	部坂 仁	山上 貴弘		芦屋	SGM	12	12	12	DNF	DNF	13	DNC	DNC	13	38	12
13	2810	関口 真秀	上松 慮生		江ノ島	M	DNC	DNC	13	DNC	DNC	13	DNC	DNC	13	39	13

レースレポート (バルクヘッドマガジン) は、[こちら](#)。

ミッドサマーレガッタ (和歌山/8月20-21日)

和歌山テザーミッドサマーレガッタ。三輪・山田組が初優勝！

ワールドマスターズゲームズ2027関西 プレレガッタ
テザークラス ミッドサマーレガッタ



主催: 主催 日本テザー協会、和歌山県セーリング連盟
協力 NPO 法人和歌山セーリングクラブ
期 日: 2022年8月20日(土) ~ 21日(日)
開催地: ナショナルトレーニングセンター(和歌山セーリングセンター)

Total Rank	5 Boats						Tasarクラス															ALL					
	SAIL No.	Fleet / Area	Boat Name	Skipper	Crew	Class	Race 1			Race 2			Race 3			Race 4			Race 5			Worst Point	Total pt	Total Rank			
1	2861	大阪北港	prime	三輪 記裕	山田 竜也		1	1	1	3	3	3	2	2	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	3	5	1
2	2719	大阪北港	La Brise Bleu	石川 光輝	中林 正任	GM	4	4	4	2	2	2	1	1	1	2	2	2	2	2	2	5	5	5	5	9	2
3	2328	芦屋		長 義晴	南屋 恵美子	M	2	2	2	4	4	4	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	4	11	3
4	2705	芦屋	Kaito	植田 泰平	植田 典子	GM	3	3	3	1	1	1	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	12	4
5	2655	芦屋		岡本 憲二	岡本 かほる	SGM	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	2	2	2	5	17	5

Date	20-Aug-22	20-Aug-22	20-Aug-22	20-Aug-22	21-Aug-22
Starting time	11:20:00	12:15:00	13:20:00	14:45	16:11:00
Finishing time	11:57:55	13:02:22	14:30:00	15:35:13	13:10:22
Race end time	12:01:10	13:04:50	14:30:27	15:37:15	13:25:26
Wind direction	260 °	270 °	270 °	265 °	85-65 °
Wind speed	8.0 kt	10.0 kt	10.0 kt	8.0 kt	8.0-3.0 kt



レースレポート (バルクヘッドマガジン) は、[こちら](#)。

オータムレガッタ (稲毛/9月11日)

軽部・軽部組が優勝！稲毛テザーオータム

2022年度 テザーオータムレガッタ 成績表

2022年9月11日 稲毛ヨットハーバー

順位	セーラーNo.	Boat Name	クラス	スキッパー	クルー	フリート	race 1		race 2		race 3		race 4		race 5		合計	修正
							順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点		
1	2881		M	軽部 香	軽部 竜也	稲毛	1	1	1	1	2	2	2	2	6	6	12	6
2	2707		SGM	石塚 恒志	小澤 拓身	浜名湖	2	2	2	2	3	3	1	1	4	4	12	8
3	2749			白石 穂高	白石 あずみ	稲毛	3	3	3	3	1	1	6	6	5	5	18	12
4	2719	La Brise Bleu	GM	石川 光輝	石黒 克司	大阪北港	6	6	5	5	7	7	5	5	1	1	24	17
5	2765	Kai Ona	GM	田中 郁也	田中 紀子	稲毛	4	4	6	6	4	4	4	4	10	10	28	18
6	2880	Pale Blue Dot		池田 陽平	池田 和希	稲毛	5	5	7	7	6	6	8	8	3	3	29	21
7	2705	Kaito	GM	植田 泰平	植田 典子	芦屋	9	9	8	8	9	9	3	3	7	7	36	27
8	2748		M	米本 隆	宮下 知之	葉山	7	7	4	4	5	5	RET	13	DNC	13	42	29
9	2741	ZRex	M	伊藤 一石	村岸 恭明	江ノ島	RET	13	DNF	13	DNC	13	7	7	2	2	48	35
10	2809	E Waild Boar	GM	野口 優	杉田 智宏	稲毛	8	8	9	9	10	10	10	10	8	8	45	35
11	2862			金子 謙一	大川 晃弘	江ノ島	10	10	10	10	8	8	9	9	9	9	46	36
12	2821		SGM	戸室 宣房	山本 武	江ノ島	11	11	RET	13	DNC	13	DNC	13	DNC	13	63	50

スタート	スタート	スタート	スタート	スタート
10:15:00	10:55:00	11:40:00	12:25:00	13:10:00
トップ艇F	トップ艇F	トップ艇F	トップ艇F	トップ艇F
10:32:42	11:23:40	12:06:35	12:52:05	13:36:48
レース終了	レース終了	レース終了	レース終了	レース終了
10:35:25	11:27:05	12:09:05	12:57:50	13:43:02
風向 40	風向 40	風向 40	風向 40	風向 40
風速 m/s 6	風速 m/s 6	風速 m/s 7	風速 m/s 7	風速 m/s 7
コース 2	コース 1	コース 1	コース 1	コース 1

レースレポート (バルクヘッドマガジン) は、[こちら](#)。

第 37 回全日本選手権 (江ノ島/11月 26-27 日)

松苗・齊藤組優勝！学連卒業生も出場、テーザー全日本選手権



37th Tasar Class
All Japan Championships

2022年度 第37回テーザー全日本選手権

26th-27th November 2022

Last update: 2022/11/27 15:41

Rank	Master Level	Sail#	Name	Flaet	Boat Name	R1	R2	R3	R4	R5	TOTAL points	NET points
1		JPN 2988	松苗 幸希 齊藤 由利	葉山	Kensin	1	<u>6</u>	1	5	4	17	11
2	Master	JPN 2987	紙 聡 紙 さおり	葉山	Megaptera ?	3	<u>8</u>	3	4	6	24	16
3		JPN 2736	山村 太郎 稲川 竜也	稲毛		2	3	<u>11</u>	11	1	28	17
4	Master	JPN 2741	伊藤 一石 村岸 恭明	江ノ島	ZRex	13	<u>15</u>	2	1	2	33	18
5	Grand Master	JPN 2765	田中 郁也 田中 紀子	稲毛	Kai Ona	5	7	7	2	<u>9</u>	30	21
6	Master	JPN 2719	石川 光輝 西代 周	大阪北港	La Brise Bleu	15	4	5	6	<u>BFD</u>	64	30
7		JPN 2716	小林 正季 仁杉 衣壁	江の島	HAYATE	<u>16</u>	1	6	14	12	49	33
8		JPN 2395	北島 龍一 井戸 達彦	葉山	MIRACLE	14	9	<u>BFD</u>	9	3	69	35
9	Master	JPN 2959	関口 真秀 上松 康生	江ノ島	Destino	6	<u>19</u>	9	10	11	55	36
10	Grand Master	JPN 2705	植田 泰平 植田 典子	芦屋	Kaito	4	13	<u>BFD</u>	13	7	71	37
11		JPN 2761	小松 充 西原 拓海	葉山	Strawberry Shake	12	10	12	<u>22</u>	5	61	39
12		JPN 2605	岩倉 遼河 西岡 龍	葉山		8	5	20	<u>23</u>	8	64	41
13		JPN 2806	中濱 光祐 田中 亮	江ノ島		10	<u>22</u>	10	7	15	64	42
14		JPN 2880	池田 隼平 池田 和希	稲毛	Pale Blue Dot	20	20	4	3	<u>BFD</u>	81	47
15		JPN 2866	渡辺 克充 真下 峻徳	芦屋	猿風	11	11	17	8	<u>DNS</u>	81	47
16		JPN 2732	大橋 太一 土井 良平 鷺尾 大吾	江ノ島		<u>25</u>	2	21	16	13	77	52
17		JPN 2749	白石 穂高 白石 あずみ	稲毛		7	14	15	<u>20</u>	17	73	53
18		JPN 2709	河内 航人 花崎 龍矢	江ノ島		9	17	14	15	<u>BFD</u>	89	55
19	Super Grand Master	JPN 2821	戸室 宣房 山本 武	江ノ島		21	<u>28</u>	18	12	14	93	65
20	Super Grand Master	JPN 2657	長谷川 勝啓 小澤 拓身	浜名湖 琵琶湖	Sail Wind	19	18	13	<u>25</u>	19	94	69
21	Grand Master	JPN 2960	本吉 謙治 石川 曉久	葉山	T*4*2	<u>29</u>	26	8	21	23	107	78
22	Grand Master	JPN 2589	井上 直樹 井上 恵子	佐島		23	12	19	24	<u>RET</u>	112	78
23		JPN 2861	三輪 記裕 山田 竜也	大阪北港	prime	<u>31</u>	21	23	18	18	111	80
24	Grand Master	JPN 2809	野口 優 杉田 智宏 菊本 諭司	稲毛	E Wild Boar	<u>24</u>	23	22	19	21	109	85
25	Super Grand Master	JPN 2707	石塚 恒志 佐野 元美	浜名湖		30	16	16	27	<u>RET</u>	123	89
26	Master	JPN 2768	日根野 麻里亜 日根野 稔弥	江ノ島		17	25	25	<u>26</u>	22	115	89
27	Super Grand Master	JPN 2808	宮下 知之 石川 洋二	葉山	Martian Kitty	18	24	<u>BFD</u>	17	<u>BFD</u>	127	93
28	Master	JPN 2862	金子 謙一 大川 昇弘	江ノ島		26	<u>29</u>	28	28	16	127	98
29	Master	JPN 2748	米本 隼 伊藤 雄一郎	葉山		28	27	26	<u>29</u>	20	130	101
30	Super Grand Master	JPN 2652	田塚 宏生 佐藤 明美	未所属		22	<u>32</u>	27	31	24	136	104
31		JPN 2205	田中 芳尚 井上 敦	稲毛		27	<u>RET</u>	DNS	DNS	10	139	105
32	Master	JPN 2469	新原 エリ子 堀内 薫	江ノ島		32	30	24	30	<u>DNS</u>	150	116
33	Super Grand Master	JPN 2767	小阪 康司 齋藤 和恵	未所属		<u>DNC</u>	31	29	32	DNS	160	126

レースレポート (バルクヘッドマガジン) は、[こちら](#)。

バルクヘッドマガジンには、優勝チームクルーの齊藤さんや学生チームのレポートが掲載されましたが、本 Newsletter では、今回 Tasar のレースに初参加された2チームのレポートを掲載させていただきます。

まず、お一人目は 2960 本吉艇のクルーとして初参加された石川さん。Tasar どころか、ヨットレース自体が人生初とのことでした。読んでいて、昔の自分を思い出しました。以下、レポートです。

ヨットレース初体験今回の全日本テザー大会は、人生初のヨットレースへの参加でした。きっかけは、約1年半前、飲み友達の本吉譲治さんが、クルーを探していたところ、ヨット経験ゼロの石川が志願したのが始まりでした。

葉山在住なのに、趣味はロッククライミングとバイク。マリンスポーツ自体、何一つやったことなく、ヨットにはまわりの友人が毎週レースに出ているので、興味はあるくらいのモチベーションで、テザーに乗りたくて寂しがっている譲治さんに、「乗る相手がいらないなら、僕でよろしければ!」と飲みの席で軽い気持ちでのお願いしたのです。1年半前は、タックとジャイブの違いも知らず、ハイクアウトって何?という状態からのスタートでまさか自分がレースに出るとまでは思いもよらず、休日にクルージングを楽しむ程度をイメージしていました。

しかし、そこに待っていたのは、譲治鬼教官。

「なんだ、そのタックは!この風速はロールタックって言っているだろ!煽れ!煽るんだよ!」

「石川ちゃん、その動きは本当にありえないよ。下手したら沈するんだよ!」

「いつも言っている動きなんだから、いい加減覚えてよ!」

「ほらまた、アンヒール!何度言ったらわかるんだ!傾く前に感じて起こすんだよ!」

なぜ、こんなにも40歳過ぎたおじさんが怒られるのか、凹む毎日。もちろん、練習中は風がどちらから吹いているかもわからず、「ブローが来るぞ!」と言われても「ブローって何ですか?」と聞いている始末。全日本に向けてヨットの乗り方を徹底的に叩き込まれました。私は、深海調査の仕事をしており、何週間も船に乗って仕事をしているため中々思うように、練習がとれず、船に乗って帰ってくると教えてもらったことをほとんど、忘れてしまう本当にダメな生徒でした。

うまくなる兆しもない中で怒られて乗っているだけの練習だったので正直いったい何が楽しくて皆さんは、ヨットやっているのか、まったくもって分からない状態でしたが、初めてのレースに参加して「なるほど!これがみんなやっている理由なのか!」と思える経験ができました。レースでは、スタート練習も、コース練習もやったことが無かった為、スタートでのジブを引くタイミング、上マークでのベアの方法もわからずスタートでは自分たちだけ取り残され、マークを回る度に何艇も抜かされ、案の定、激烈に怒られながらのレースでした。



上マークを回り、ジブハリを緩ませすぎて一気に順位を落としてしまい、「おいおい、勘弁してくれよ!俺がリーチングで抜かれるなんてありえないぞ!」とリーチングを絶対的に得意とする譲治さんの名言も飛び出すほどでした。しかしながら、中断した初日の2レース目と、二日目の第3レースは、好位置で走ることができ、トップ集団で走れるのはこれほどまでに、気持ち良い景色が見れるものなのか!と正直な感想と絶対に抜かれたくないし、一つでも順位を上げてやるという緊張感は、ボーっと生きていたら味えない経験でした。

最終コーナーで、自分のクルーワークの失敗(ローテーションを返さない)で、3艇に一気に抜かれる事態に陥った口惜しさも、もし、いつかトップでゴールできたら、どんな世界が待っているのかという興味が湧いてきました。また、レース経験をしたことで、これまで練習してきた内容の意味と重要性が、ようやく分かってきました。たった一つのクルーワークの失敗で一気に失速し、その積み重ねがレースの順位に影響され、これは、まさに鬼教官が練習中に繰り返し、私に伝えてきたものだと、よく理解できました。まだまだ、風を読むほどまでにヨットレースの展開は理解できていませんが、少しずつ、理解できる内容が増え、自分の動きが結合し、それがスピードアップつながれば、本当にやめられない世界であると感じました。40歳過ぎた覚えの悪いおじさんですが、ぶっちぎりでゴールするのを夢見て、今後も楽しんでいけたらと思います。

続いては、2589で夫婦参加された井上恵子さんのレポートです。井上直樹さんはスナイプ、恵子さんはJ24でと、これまでセーリングをされてきたとのことですが、Tasarに乗ってみてどう感じられたのでしょうか。以下、レポートです。

2022 テーザー級全日本に参加して11/26-27 江の島で開催された当該レースに初参加した、井上直樹、井上恵子ペアの恵子です。20代、数年間J24でセーリング競技に没頭しましたが、結婚出産と続き、仕事×セーリングではなく、家庭、子育て×仕事のライフバランスにシフト。無我夢中の数十年が過ぎ、きがつけばもう50代。次女も高校生になり、週末一人でいることも増えたところ、今回主人にテーザー級に乗ろうと誘われたときは、結婚式で二人でワールドに挑戦したいねなんて話していたのもあり、うれしかったのと同時に、大丈夫か私、、、と不安がいっぱいでした。



初めての艇種に、ディンギーの出艇、着艇ってどうやるんだっけ、、、いろいろいろいろ忘却の彼方だし、体力的に沈でもしようものなら、冬だし、海に沈んでしまうのではないかなど、考えることはどーしようもないことばかりでした。

主人と練習日を定めるも風が強い日に当たりほぼノー練習で当日が近づきました。この不安をどう主人に伝えるべきかと迷いもありましたが、ヨガでの体幹づくりとストレッチだけは続けていたので、体は動きそうでしたのでどうにかなるだろうとこの気持ちをだましました。当日早朝に江の島に向かいました。

会長の宮下さんはじめ、フリートの皆さんが、沢山アドバイスくださり、年齢層も様々。とってもいい雰囲気ここまで来たからに怪我無くやりきるぞと決めました。

土曜日の予報は雨のち晴れ。強風から無風→順風でした。風が微風のうちでないと怖くて出れなくなりそうでしたので、雨が止んだ段階で、レース海面へ一足先にレッツゴー。タックを何度か繰り返すとマストローテーションのタイミング確認したり、ポールを使ってみたりテーザーってこんな動きなんだ、ディンギーって海面近いなど思いながら、徐々にいい風に。徐々に船に慣れることができたのはラッキーでした。振れ振れの難しい風でしたが、1レース成立。自分をおばさんだと陸では思っていたけど、乗り始めたら気持ちは20代(笑)。心地よい疲れと楽しい気持ちで初日を終えることができました。

二日目はマストトラブルで1レース目間に合うかなという状況でしたが、ぎりぎりスタート。コンスタントに吹く風の中、ボートの機敏な動きにドキドキしながら、レースを楽しみました。なかなかタックが決まらず、3レース目で主人とようやくタイミングを合わせることに。マストローテーション操作ののちタックが決まりはじめ、「自分ナイス」と言い聞かせていました。風が強くなってきていたものの、4レース目動けるんじゃないかと過信しスタートしましたが、タックで完沈。前日のレセプションで沈の練習の話をしていて、覚悟はしていましたので気持ちは落ち着いて対応できたと思います。

テーザークラスはいろんな方に開かれたフリートの雰囲気よさはとても魅力と思います。1日目こっそり早めに出艇の際も、温かく皆さんが見守ってくださっていたのを感じておりました。そんな初参加のレースでしたが、もっといろんな風域に慣れて、しっかり走れるようになり楽しみたいと思いましたし、もっともっと練習してかっこよく着艇できるようになりたいと思いました。これから寒くなって、この心意気がどこまで続くかという課題もありますが、人生100年時代、今から、しかも夫婦で楽しめる目標や活動を持てたらそれは素敵なことだなど、楽しそうな近い未来をおもい浮かべました。今回誘ってくれて、たくさん準備してくれた主人と、私達を歓迎して下さったテーザークラスの皆さんに感謝申し上げます。体力を維持して練習頑張ります。

特別寄稿 ～テザー世界選手権レポート

アメリカ Seattle は Shilshole Bay で開催された 2022 Tasar World Championships。日本からは唯一の参加艇となった 2959 関口・上松ペアのお二人にレポートを寄稿いただきました。

2022 年 9 月に北米 Seattle で行われたテザー世界選手権のレポートです。(関口真秀)

テザーの世界選手権は予選がないとはいえ、さすがに上位はハイレベルなチームが拮抗するのが常。ただ今回は、これまでになくレベルの高いワールドでした。全 30 艇というコンパクトな大会でしたが、蒲郡ワールド参加 97 艇の上位 20 艇が今回の 30 艇中の上位 20 艇にいて、そしてその中の上位 8 艇にテザーワールドチャンプが 5 艇という結果から、その上位層の厚さがわかりますでしょうか。



今回の優勝チーム Dalton & Lindsay Bergan チームは 2013 年テザーワールド in USA, Columbia gorge で 3 位のチームです。Dalton は元々 49er セーラーで、今回の大会直前にゴージで開催された 2022 年 RS Aero 7 のワールドで優勝してからのテザーワールド優勝です。Lindsay のご実家は USA でもトップクラスのエリートセーラーファミリーで、ご両親は 2001 年テザーワールド in UK, Whitstable の優勝チームです。二人共モスにも乗るし(Lindsay はモスワールド女性トップ選手)、とにかく息をするようにトリムし、鼻歌を歌うようにセーリングするお二人という印象です。13 レース中 1 位を 6 回、吹いても微風でも速かった(よう)です(←私からは見えてない)。2 日目の微軽風 2 レースともトップでしたし、145kg 位(見た目)のチームでしたから、「クルーウェイトが軽いと速い説」は、軽風がレガッタの半分だったにもかかわらず 150kg チームが優勝した 2011 年ワールド in UK, Torbay に続き論理破綻でした。

その勝者に最終レースまで優勝の座を明かさなかったのが Johnathan & Libby McKee チーム。Johnathan のスーパーセーラー度を知らない方はいないと思うけれど、何と言っても特筆すべきは Libby のスーパーハードハイクアウト。ほんと、凄いから。見倣いたくても見倣えないレベル。凄すぎるスーパーウーマンなのに、私達が蒲郡でプレゼントした「I love Tasar」T シャツ着てくれていたり、とってもチャarming。言わずと知れた 1996 年 Columbia gorge、2003 年 Victoria、2007 年プーケット、2017 年蒲郡ワールドの優勝チームです。

そして、Jay & Lisa Renehan チームが 3 位となりました。1992 年葉山ワールドの優勝チームです。このお二人には今回とってもお世話になりました。Lisa は今大会のオーガナイザートップでしたので、イベントのあらゆることを仕切りつつ、ご自宅でのディナーに我々を呼んでくださったり、Jay にはチャーター艇関連のあらゆることをおんぶにだっこ状態。そしてそんな多忙な大会直前も、30 分だけでも!とセーリングする姿勢は刺激になりました。二人ともそれぞれ、オリンピックで世界の頂点を目指していたご夫婦で、Jay は今も年間 200 日乗っているとっていました(本業は会社勤めですよ)・・・!

とまあこういう感じに、スーパーセーラーが上位にひしめいていた訳ですが、別の視点で特筆すべきことは、この調子で全員の紹介を出来るほど、参加者の皆様と交流できたレガッタだったことです。参加艇が少ないというだけでなく、日本からの参加が私たちだけだったというのも大きくて、とにかく必ず誰かが話しかけてくれるという、そして日本から

来てくれてありがとうと皆に言っていただけて、本当に幸せな大会でした。アメリカチームの皆さんだけでなく、ホストクラブのシアトルヨットクラブ・大会会場のコリンシアンヨットクラブのホスピタリティも素晴しかったし、それから同じく唯一参加の Canada チーム、同じくはるばる遠征の Australia チーム 10 人とは本当に仲良くなりました。

レースの話や北米での最新セーリングスキルの話は我がクルーのレポートに譲りますが、アメリカチームの速さの秘訣は、プラクティス&ディスカッションのようです。みんなで同じマーキングをして練習し、毎回練習後に振り返り(大会中も Daily briefing がありました。日々の上位艇の走らせ方を聞いたり、質問したりできる時間は超貴重でした。)をして、みんなで技術を磨き、若手選手の育成をしていることがよくわかりました。4 位 6 位 10 位のチームはワールド参加のためにテザーに乗り始めた 20 代のセーラーで、16 位は高校生セーラーでした。日本も頑張らないと!

最後に。今回、コロナ禍・円安・不安定な世界情勢の中、日本から唯一であっても、どうしても私がこのワールドに行きたかった理由。それは、前回のイギリスワールドで大怪我をして、世界のテザーセーラーにたくさん心配をおかけして、そして励まされ、私はこの怪我を乗り越えてまだまだテザーやるよ!という姿をみんなに見せたかったからです。そして、それを叶えることができました。このキャンペーンと一緒に参加してくれたクルー様に感謝です。

以上、私の記念すべき 10 回目のテザーワールド参戦記。

応援して下さった皆さま、ありがとうございました!

最終成績はこちら

<https://seattleyachtclubsailing.s3-us-west-2.amazonaws.com/2022+Tasar+Results.html>

※写真提供(関口さん)



オープニングパーティーはホストクラブの Seattle Yacht Club で。バジを交換。



Seattle 市内の Lake Washington でのクルーズイベント。

北米で議論されている最新セーリングスキルの話(上松慮生)

今回特によかったのは、北米(シアトル界限)の方々普段実施している練習やレース後のブリーフィングに全員が参加できたことです。今回はプラクティスレースを含めすべてレース形式だったため、その日の特に良い走りをしたチームが注意した点や気づき等を共有し、それに対して質問・議論をするという内容で展開されました。そこで話されていたことは、世に出ているセーリングに関する文献やテザーに特化した文章に書かれている所謂教科書的な内容も多く、当たり前のことを当たり前を実施することの大切さと難しさを再認識しました。その中で、北米のセーラーが実施・実験している、教科書的ではない、最近のテザーの走らせ方について学んできたことを共有します。

1) マーキングの共有:

これは最近の話ではないのですが、ブリーフィングの際の議論でメインシートを引き気味だった、出し気味だったという情報を客観的に表現するため、全艇が同じマーキングを共有していました。具体的には、トラベラーをセンターリングした状態で、メインシートを引いてきたときにブームがそれ以上中に入らない(ブームが下に下がる)点をメインシートにマーキングし、議論では、その位置からどの程度メインシートを引いていた出していたという情報を共有していました。

ジブに関してはメインのように共通したマーキングはなかったのですが、北米艇の多くはデッキにマーキングをしていました。ちなみに、Jonathan & Libby 艇のマーキングは以下の手順で再現できます。

- ・バウのU字ボルトから910 mm (3 ft) の位置で左右のガンネルとセンターラインに印をつける
 - ・ガンネルとセンターラインの点を直線で結びガンネルから130 mm (5 inch) の位置に最初のマーキングをつける。
 - ・最初のマーキングから25 mm (1 inch) 間隔で6個マーキングをつける。最後のマーキングはガンネルから280 mm (11 inch) になる。
 - ・外側から3つ目のマーキング(ガンネルから150 mm; 6 inch) をベースにする。
- なお、ベースよりも内側に4つもマーキングがある理由は後述します。

2) アップウィンドでのダガーボードトリム:

アップウィンドでのダガーボードはこれまでアンダーパワーでも少し上げて走るのが一般的で、どの程度上げるかが議論の内容の中心でしたが、最近では完全に下した状態で走っており、いろいろなコンディションでもやはりそれが速いという認識になっていました。もちろんオーバーパワーになると上げるのですが、その上げる量も以前に比べると少ないという話がありました。

今回のレガッタはオーバーパワーになるコンディションが少なかったため、ダガーボードのトリムの話が比較的多かったです。優勝したDalton&Lindsayはオーバーパワーになるかならないかのコンディションの時にアップウィンドが圧倒的に速かったとのことですが、常にダガーボードをトリムしていたと言っていました。

3) アップウィンドでのブーム位置:

これもオーバーパワーになるまでの話になりますが、アップウィンドでブームをセンターより上側に持ってくるのが一般的になりつつあるのを感じました。あるブリーフィングで、今日アップウィンドでブームをセンターより上側に持ってきていた艇は?という質問に対して、北米のチームはほとんどが挙手していました。ただ、これについてはまだトライアル&エラーの段階でいろいろ試しているようでした。ジブの引き込み具合もその一つで、メインセールに合わせてベースからどこまで中に引き込むかいろいろ試している最中のようなようでした。ベースよりも内側に4つもマーキングが存在している理由はこの検証のためです。

以上、走らせ方に関して新しいアイデアを2つ紹介しましたが、このような新しいアイデアが出てくるのは多分に皆がいろいろな艇種に乗っており、そこで学んだことを試しているからだだと思います。定番のRS AeroやILCAはも

ちろんのこと、キールボートにも乗っている話をたくさん聞きました。例えば、Jay は近いうちに 53 ft のカタマランに乗るのが楽しみだと話してくれました。ちなみにその船は Jonathan が 2018 年の RORC Caribbean 600 で乗ってレース中に沈した船です。その Jonathan は Alyosha と R2AK や Rolex Middle Sea Race に積極的に参加しています。また、ジュニアの Dieter と Sam は TP52 に乗っていて 2023 年の Transpac に出ることを目指しているとのことでした。

このように、いろいろな船に乗ることによって様々な乗り方に触れ、それをテザーでも試し、ほかのやり方を試した人と比べながらより速く走れる方法を探していていることが印象的でした。

最後に、あるブリーフィングで Jonathan が、「30 年以上テザーに乗っているがまだ正解は見つかっていないし、毎回新しいことを試している。」と言っていたのが心に残りました。

編集後記

私事ではありますが、2022 年 9 月に膝を骨折、12 月にはコロナと暫くセーリングができず鬱々としている日々でしたが、だからこそ今回の Newsletter 編集作業は、あらためて Tasar セーリングの愉しさを思い起こさせてくれるものでした。

相変わらずの遅筆のため、新年もすっきり開けてしまいましたが、そのおかげで「C6 撤廃！」というホットニュースを宮下会長の挨拶に入れていただくことができました。和歌山ワールドに参加した際、前半のクルーが 100kg 級だったのに、後半クルーの僕がガリガリだったのでフルバラスト積んで参加したのも今となっては良い思い出です。

Post コロナの新しい日常が始まりつつあります。Tasar セーラーの皆様におかれましては、本年も豊かなセーリングライフがおくれますように！

(葉山フリート：ソニーヨット部 小松 利英)